

公益財団法人高速道路調査会の代表者が評議員を務める REAAA の第 120 回評議員会が開催され、併せて開催された REAAA 技術委員会 (TC)・技術小委員会 (TSC) および第 24 回若手技術者・専門家会議の概要について出席者から報告します。

第 120 回 REAAA 評議員会出席報告

鈴木 徹*

はじめに

アジア・オーストラレーシア道路技術協会 (Road Engineering Association of Asia and Australasia : 以下「REAAA」という) の第 120 回評議員会が、2023 年 8 月 24 日インドネシアのラブアンバジョで開催された。また、今年 REAAA 設立 50 周年に当たる年であることから 50 周年記念大会があわせて開催された。日程は表一 1 のとおりである。

日本からは、橋場 REAAA 副会長 (日本道路協会代表評議員)、鈴木評議員 (高速道路調査会代表評議員)、神谷舗装技術小委員会委員長 (中日本高速道路株) が現地で参加した。

評議員会の前日に、第 24 回若手技術者・専門家 (Young Engineer & Professionals : 以下「YEP」という) 会議が開催され、日本からは広地氏 (東日本高速道路株)、小林氏 (本州四国連絡高速道路株) の 2 名が出席した。

今回の出席報告では、評議員会および 50 周年記念大会は鈴木が担当し、技術委員会 (以下「TC」という) は神谷氏が、YEP 会議については広地氏がそれぞれ担当する。

表一 1 第 120 回 REAAA 評議員会等プログラム

8/23(水)	夜	第 24 回 REAAA YEP 会議
8/24(木)	午前	第 120 回 REAAA 評議員会
	午後	第 13 回 REAAA HORA 会議
	夜	ウエルカムレセプション
8/25(金)	午前中	オープニングセレモニー キーノートスピーチ
	午後	第 10 回 REAAA ビジネスフォーラム (上記と並行して) テクニカルセッション
	夜	REAAA50 周年記念 ガラディナー
8/26(土)	終日	テクニカルセッション
8/27(日)	終日	テクニカルビジット, カルチャービジット

1. 第 120 回評議員会の開催と進行

会議は Dr. Sung-Hwan Kim REAAA 会長 (韓国) の挨拶による歓迎の辞によって始まり、前回シンガポールで開催された第 119 回評議員会の議事録確認、財務委員会報告、事務総長報告がなされた後、各委員会・作業委員会 (以下「WC」という) からの活動状況報告がなされる形で進行された。

(1) 財務委員会報告

当報告では、冒頭 2023 年度の収支状況 (6/30 時点) の説明が Ms. Lydwina Wardhani (インドネシア) よりあった。6/30 時点での収入は 97,285 マレーシア

* REAAA 評議員, 日本高速道路インターナショナル株 (JEXWAY) 代表取締役社長



写真—1 REAAA 第120回評議員会 各国の評議員

リングット（以下「RM」と示す）であり、年間計画額のRM 355,421の27.3%でしかない。一方の支出は、6/30時点でRM 134,597であり、これは計画の48.7%である。6/30時点の収支は、RM 37,312の赤字であった。赤字の大きな要因としては、会員数の減少が挙げられる。今評議員会では、会員数の動向を把握するとともに、各国は原因究明し、しかるべく対応することとなった。

また、当報告では、2024年度の収入と支出も提案されている。収入額はRM 380,187、支出額はRM 297,098がそれぞれ予定額として提案された。

(2)事務総長報告

事務総長（Ir. Mohd Shahrom Bin Ahmad Saman マレーシア）より、翌日から開催される「REAAA 設立50周年記念大会」の準備状況と「同記念ビデオ」の内容説明などがあった。

(3)各委員会・WC活動報告

今回報告があった各委員会・WC活動状況のうち、主なものについて以下紹介する。

1)C9（会員拡大WC）

REAAAの会員数は今年の7/15現在1,126名であり国別では、マレーシア311名、フィリピン239名、日本131名と続く。財務報告でも触れられたように、2019年の1,453名から急激に会員数が減少している。これは会費未払い会員の解消などによるが、一方の会員増の具体的方策が取られておらず、早急な立て直しが必要である。

2)C3WC7（広告WC）

REAAAの3媒体（ニュースレター、ジャーナル、ウェブサイト）への広告掲載状況について報告があった。WCとしてはREAAAの11メンバー国、全てから各媒体への広告掲載がなされることを目指しており、現時点では、日本、マレーシア、フィリピン、台湾からの8件に留まっている。

3)C3WC2（ニュースレターWC）

『REAAA ニュースレター 2023年 第1号』が今評議員会直前の8/15に発行された。内容については、REAAAの50年の歩み特集されている。また、2024年2月に発行が予定されている今年度第2号のコンテンツ案が紹介された。

4)C6WC1（片平賞WC）

片平賞については、前回評議員会にて片平賞の表彰対象を従来の優秀な技術論文に加え、日常のTC活動を作成される優秀なケーススタディー・レポート等の報告書・論文を含め表彰することで変更が加えられた。これらの変更は新たにガイドラインとして示され、前回評議員会で提示され、その後、意見等ないことから今回評議員会で正式なものとなった。

今回評議員会では、WC長の鈴木より、当ガイドラインに沿って、2025年秋韓国で開催される第17回REAAA道路会議での片平賞表彰に向けた概略のスケジュール、すなわち、次回評議員会までには片平賞技術論文評価・選定委員会が立を上げる必要がある点強調された。

5)C6（片平・三野ファンドの現況等）

それぞれのファンドの預金状況を、WC長である鈴木より報告した。片平ファンドは2023年7月末で37,729.58ポンド、三野ファンドは2023年6月末36,006.38ドルが預金されている。WCからは、それぞれの普通預金を昨今の金利高を鑑みて、1年の定期預金に振り替えるよう提案された。

6)C6WC2（三野ベストプロジェクト賞）

三野ベストプロジェクト賞とは、2016年に創設されたアジア・オーストラレーシア地域における優秀な道路または橋梁プロジェクトを表彰するものである。

橋場氏（三野ベストプロジェクト賞WC長）より、第17回REAAA道路会議での表彰に至るスケジュール

ル、選定評価基準などについて報告があった。

7) C4WC4 (YEP WC)

YEP 会議は REAAA 加盟国の若手技術者・専門家の交流促進を図る目的で活動している。評議員会の前日に開催された第 24 回 YEP 会議の状況について報告がなされた。その内容については、別掲で広地氏より報告する。

8) TC および C4WC1 ~ C4WC3 (各技術小委員会 WC)

TC および 3 つの技術小委員会 (舗装技術小委員会 (Pavement Technology committee, PTC), 気候変動・レジリエンス・緊急事態管理小委員会 (Climate Change, Resilience and Emergency Management Committee, CREMC) および道路安全小委員会 (Road Safety Committee, RSC) の活動状況について TC 委員長 (Mr. Kieran Sharp オーストラリア), 道路安全小委員長 (Dr. Muhammad Marizwan bin Abdul Manan マレーシア) および舗装技術小委員長の神谷氏から報告された。その内容については、別掲で神谷氏から報告する。

9) その他

スマートハイウェイ賞, Hwang 賞それぞれの第 17 回 REAAA 道路会議での表彰に向けた準備状況報告があった。

2. 第 121 回以降の評議員会開催国の調整

前回第 119 回評議員会開催時に空白であった, 次回第 121 回については, 2024 年 5 月にフィリピンにて開催すべくフィリピンの評議員より提案があった。しかしながら, その開催時期については, その次である第 122 回が既に 2024 年 8 月, バンコクにて開催検討

中であり間隔が近いことから, フィリピン機関に対して前倒しの要請がなされた。

第 123 回については, REAAA キム会長より 2025 年春日本開催の要請が日本道路協会に届いている中, 今評議員会では橋場氏より「関係者と協議中」と説明がなされた。また, 第 124 回評議員会については, 2025 年 10 月開催予定の REAAA 第 17 回道路会議の中で開催される予定であり, 韓国の評議員より準備状況の説明があった。

3. 第 13 回 REAAA HORA 会議

今回の評議員会に合わせ, 第 13 回 REAAA HORA (Head of Road Administration) 会議が, “REAAA Contribution to Road Development in Each Member Country” をテーマに開催された。日本, マレーシア, 台湾, フィリピン, 韓国, シンガポール, インドネシアの政府関係者が出席され, 日本からは国土交通省道路局企画課国際室の永尾室長が日本の状況についてプレゼンテーションを行った (写真一 2)。

4. REAAA50 周年記念大会の概要

今年は, REAAA 設立 50 年の年であり, これに合わせ, REAAA50 周年記念大会が 8 月 24 日 ~ 27 日の日程で開催された。テーマは Advanced Technology



写真一 2 第 13 回 HORA 会議出席者

表一 2 テクニカルセッション テーマ等

	テーマ	論文数	内日本関係
Topic A	New and Innovative Pavement Design & Maintenance/Road Pavement Recycling	20	6
Topic B	Road Safty	15	2
Toipc C	Resillience and Disaster Management for Road and Climate Change	11	3
Topic D	Geotechnic, Bridge, and Tunnel	20	4
Topic E	Transport and Highway Planning, Gometric of Road and Accesibility	12	1
Topic F	Transport Administration and Strategic Improvement of Project Management	11	0
Topic G	Asset Management and Digital Technology in Road Network	12	2
	合計	101	18

Implementation Towards Sustainable Road Development である。期間中の参加者は、事務局発表で1,017名、うちインドネシア人が900名、また、日本からは35名が参加した。期間中7つのテクニカルセッションが開催された(表-2)。

併せて第10回 Business Forum が開催された。テーマは Knowledge Sharing “The implementation of Technology 4.0 to Deliver Sustainable Road Infrastructure” であり、全体で6編のプレゼンテーションがあった。

また、期間中、日本の高速道路会社6社および日本高速道路インターナショナル(株)で日本の高速道路技術を紹介するブースが設けられた。100部以上用意した

パンフレットやノベルティが全てさばけるほどの盛況ぶりであった(写真-3)。



写真-3 日本の高速道路会社のブースを視察されたインドネシア バスキ公共事業住宅省大臣

REAAA 技術委員会 (TC) ・ 技術小委員会 (TSC) 報告

神 谷 恵 三*

本稿では、技術委員会 (Technical Committee) の全般と各技術委員会 (Technical Sub-Committee) の活動について神谷が報告する。

今回、Sharp 技術委員長を含めオーストラリアからラブアンバジョへの対面参加は無かった。技術委員会の報告は、Sharp 氏がオンラインにより行った最後の仕事となった。

1. 技術委員会

最初に Sharp 氏の技術委員長退任申請が認められ、後任は ARRB から Dr James Grenfell 氏が正式に担うことが決議された。

(1) REAAA ジャーナル

2021年のフィリピン大会の受賞論文が2年経過したが、今もなおジャーナルとして公開されていないことは由々しき事態である。評議会はこれを深く認識するべきであると苦言を呈した。

* REAAA 舗装技術小委員会 (PTC) 委員長, 中日本高速道路(株) 技術本部高度技術推進部専門主幹

次に、スキームはあるものの、全く不活発な REAAA ジャーナルを廃止することとし、報告類はテクニカルレポートまたは REAAA ニュースレターへの移行が提案された。

(2) PIARC との連携

REAAA レジリエンス技術委員会は PIARC TC 1.4 と TC 1.5 との連携がうまく機能しているとは言えない。

改善策として、後任の技術委員長、レジリエンス小委員長とその WG 長に対して情報交換を強化しよう求めた。

(3) 統計 Data

年間の道路死者数等の統計データのアップデートの滞りは、本件の統括責任者が不在であることが指摘された。このため、評議員会事務局が毎年の照査を行うことが提案された。また、アップデートの必要がある場合は、評議会在が技術委員長と事務局に調査を求めた。これらは全て後任の Dr Grenfell への配慮である。

(4) 50周年記念誌

今回の記念イベント後の発行にあたり、各国の歴史情報量に大きな差が見られることから、10月末までにドラフト作成を目指し、評議員会の査定を受けることが提案された。一方、記念式典においては、往年の高名な評議員へのインタビュービデオが無事に紹介された。

さいごに、Kim 会長からこれまでの Sharp 氏による絶大な貢献に対して栄誉と労いの言葉が述べられた。会場から拍手があったことは言うまでもない。

2. 舗装小委員会

非常に不本意であったが、4月以降、実質的な進捗がほとんどなかったことを述べた。5月のオンライン会議では、舗装修繕の事例紹介を通して未提出者の啓蒙を図った。しかしながら、依然として2カ国のみでの提出に留まっている。既に各国に対してレポートの発掘からドラフトの執筆代行といった負担軽減を図る提案を実施しているので、これ以上の支援策は思いつかない。それゆえ、この会議の直後にレポート執筆の督促を未提出国の委員に留まらず、評議員諸氏にもご連絡させていただく旨を述べた。

このような無関心と不活発さは、先述の Sharp 氏による全般報告にも通じるものがある。後任の Grenfell 氏と共にレポート収集に努めてまいりたい。

3. 道路安全小委員会

二輪車の交通事故に言及した各国アンケート調査が実施されており、これを集約したドラフトレポートが紹介された。性別人口、車種別の登録車両台数、車種別と年齢別の死傷者数、事故要因等の一般統計の後、各国の法的義務や対策等が紹介されている。回答国はシンガポール、NZ、日本、韓国、マレーシア、タイ、インドネシアの7カ国であった。死亡事故の減少に向けたインフラ側の安全施策については、多様な取り組みが実施されていることが分かった。



写真—4 分離政策による車両速度の低減 (NZ)

例えば、タイでは交通安全諮問に重きが置かれる一方、NZと韓国では速度の制限や歩道との分離政策等が採られている(写真—4, 5)。

4. レジリエンス小委員会

本小委員長と PIARC TC 1.4 の委員長を兼任されている Ms Caroline EVANS (Australia) が欠席のため、今回も Sharp 氏が活動の報告を担われた。

本小委員会の目的は、気候変動とその対応に関するメンバー国の懸念に応えると共に、PIARC TC 1.4 (Climate Change and Resilience of Road Network)、ならびに PIARC TC 1.5 (Disaster Management) との協働を図るものである。昨年11月、インドネシア政府が両者を招き入れた国際セミナーがジョグジャカルタにおいて開催されているので、レポート作成は可能であると思われた。しかしながら、各国からの積極性と委員会への支援体制が見られそうにない状態が続いている。先述の提案に寄らず、Sharp 氏は本小委員会の今季解散を提案した。

この発言は PIARC との協調を事実上無効にすることを意味するので、Kim 会長から各国の協力支援体制の見直しが提案された。このような議論はもっと早期に展開されるべきであるが、Sharp 氏の引退時になってはじめて見られるのは皮肉なことである。レポートの収集を巡っては、神谷が統括する舗装小委員会も同じ問題を抱えているが、協力支援体制がどれくらい改善されるかは依然として不明である。

さいごに、Sharp 氏は後任 Grenfell 氏への支援をお願いされたが、内心は複雑な心情であったと思われる。



写真—5 タイ諮問機関による教育 (上), 安全標識 (下左), 路面標示 (下右)

REAAA 第 24 回若手技術者・専門家会議出席報告

広 地 豪*

REAAA50周年記念大会の開催に先立ち、第24回若手技術者・専門家(Young Engineers and Professionals:以下「YEP」という)会議が、インドネシアを幹事として2023年8月23日に開催された。YEP会議は各国の若手道路技術者の交流を目的として、2012年4月の第1回会議以降、評議員会と合わせて年2回程度開催されている。

1. 第24回 YEP 会議の概要

本 YEP 会議は、シンガポール、韓国、インドネシア、マレーシア、日本から 26 名が現地参加、台湾、オーストラリア、フィリピンから 6 名がオンライン参加するハイブリッド開催で、YEP の他、オブザーバーとして評議会メンバー、REAAA 事務局メンバー等が参加した。日本からは、高速道路各社 YEP (表一) から 2 名 (小林、広地) が現地参加した他、橋場 REAAA 副会長、鈴木 REAAA 評議員、神谷 PTC 委員長にもオブザーバー参加いただいた (写真一六)。

今回の YEP 会議には議長のマレーシアの Hamzah 氏が参加できず、インドネシア REAAA 評議員メンバーの Dr.Yusuf 氏が議長を務めた。

YEP 会議は通例どおり各国 YEP の自己紹介および前回 YEP 会議からの活動報告から始まった。活動報告は国によりさまざま、最近の政策動向、技術動向、プロジェクト紹介、2025REAAA 評議会の紹介等であった。日本からは、2023 年 5 月に神戸で行われた PIARC ワークショップへの参加等の YEP 国内活動紹介や本州四国連絡高速道路(株)での事業について発表を行った。

また、今回はテクニカルセッションを従前よりも充実させる意向であったため、「IoT」をテーマに 5 つの国・地域 (オーストラリア、日本、シンガポール、台湾、インドネシア) から報告を行った。内容は下記のとおりである。

- ・ビッグデータ・センサーを活用した舗装ヘルスマニ

- タリング (オーストラリア)
- ・次世代高速道路 (moVision) (日本)
- ・LiDAR による 3D マッピングや BIM を活用した道路設計・建設 (シンガポール)
- ・レーンマークの滑り評価 (台湾)
- ・地震や液状化等自然災害地域での橋梁設計 (インドネシア)

表一 各社の Young Engineers & Professionals (YEP)

所属	氏名
東日本高速道路(株)	広地 豪
中日本高速道路(株)	北口 修
西日本高速道路(株)	前原 慎也
首都高速道路(株)	大村 陽
阪神高速道路(株)	儀賀 大己
本州四国連絡高速道路(株)	小林 弘昌



写真一六 YEP 会議参加者集合写真

2. 所感

約 2 年半程度 YEP として活動した中で、ようやく対面交流が叶った場となった。今まではオンラインのみでの参加であり、そこまで親密な交流はできなかったが、本大会は対面での参加であったため、議論が容易で、各国 YEP とも交流を深められた点で非常に有意義な大会となった。対面で会うことの重要性を改めて認識した大会であった。また、この繋がりを継続していくことで、普段から情報交換のネットワークとして活用することも期待出来ると感じ、今後の YEP 会議の益々の発展を祈念する。

* 東日本高速道路(株)技術本部海外事業部海外事業推進課